

## HCBJ リスナーを訪ねて 南米ふれあいの旅 1995年



南米赤道下の国エクアドルから南米向けに日本語放送が開始されたのは、東京オリンピックが開催された1964年の5月1日でした。その一ヶ月後、待ちに待った受信レポートが届き始め、その一通、一通に不思議な神の導きを感じさせられました。「はじめてお便りします。いきなり日本語の番組が飛び込んできてびっくり。大喜びしています。ローカル放送並みです。エクアドルからと聞き、地図を見てびっくり。あんな遠いところからご苦労様です。ちょうどブラジル政府の通達で日本語を含めて外国語による放送が禁止になったばかりだけに飛び上ってしまいました。」 「手紙の紹介で日本から同じ船でブラジルに渡ってきた家族の消息がわかりました。」「日本人学校の生徒達には日本語の勉強になるので家族と一緒に放送を聞くようにすすめています。」「わたしの受信機は英国製。真空管は傍熱型。スイッチ・オンしても1分以上待たないと入ってこないのので早めに準備して受信しています。」 放送開始は、まさに「天の時」でした。



赤道におり立った日本初の宇宙飛行士毛利衛さんは、「エクアドルの最高峰チンボラソは、地球が楕円形であるため、その山の頂上は世界のどの地点よりも地球から遠い。」と著書の中で紹介しておられますが、アンデスの峰が世界の隅々にまで番組を届けるアンテナとしての最適の場所を HCBJ は「地の利」として与えられたのです。

放送開始から30年後、ブラジル日系キリスト教連盟からの招きで私たちが待ち望んでいたリスナーとの30年目の出会いが実現したのです。1995年夏、エクアドルを出発し、ペルー、ボリビア、ブラジルの3カ国を巡り、合計19ヶ所、30集会、300名のリスナーの方々を訪ねることができました。遠くからの声に耳を澄ましてくださっているひとりひとりとの対面はどこでも感動的で、目で見て、手で触れ、存在を確かめ合う「人の和」を実感しました。差し出される手には人知れぬ苦労が深く刻み込まれていました。「ジャングルの奥深くで主人は放送を聞きながら天国に召されました。」それを伝えるため、大河アマゾンに船で三日間もかけて会いに来てくださった方。息子さんの運転で遠路はるばる会いにきた初老の紳士は、車を降りるなり「私は移住地を転々と歯医者として働きながら放送にはいつも励まされていました。無断でずっと盗み聞きして済みません。これが初めての受信報告書です。」 深く頭を下げて渡された封筒には感謝の言葉と金一封が添えられていました。移住家族の人たちは夕暮れ時、アンデスの峰を越えて飛んでくる番組に耳を傾けながら、日々の労働の疲れを癒し、明日に向かって立ち上がる勇気を取りもどしていたのです。



ブラジル日系キリスト教連盟総会の席上、HCBJ 日本語放送への感謝状が私たちに手渡されました。「年中無休の放送伝道ご苦労様です。ラジオはその特性から、特に不便な奥地の人たちにまでその声を届け、多くの人たちの心の支えとなり糧となりました。これは、広い大地で活躍する日本人移住家族の人々の心の慰めとなり、励ましとなるための神の計画です。神の愛と恵みと祝福が放送を通してさらに豊かに注がれますようお祈りしています。」 (旧約聖書 詩篇19篇)

### サタデー・トーク

### バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
10月03日	マリンバの調べ	10月04日	聖書遊覧バス (創世記：イサク誕生)
10月10日	折り紙の詩 (うた)	10月11日	リスナーからの「お便り交換の時間」
10月17日	ZOOM ミーティング (第三回) 前半	10月18日	ZOOM ミーティング (第三回) 後半
10月24日	南米ふれあいの旅	10月25日	聖書遊覧バス (創世記：ハガルの悲運)

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。(mp3形式)

放送時間：日本時間 午前7時半~8時 15410kHz (再放送) 午後8時~8時30分 15.565kHz  
(米国アリゾナ州制作/オーストラリア送信)

\* 受信報告書をメールで送る場合： [hcbjapan.office@gmail.com](mailto:hcbjapan.office@gmail.com)

